

暮らしのメロディーをミドリーノ

あなたも指揮者



皆さまのお一人、お一人が

いわば暮らしの指揮者。

明日の夢を実現するための

確かな指揮に合わせて、

中信も努力を重ねてまいりたいと

考えております。

DOSHISHA GLEE CLUB

THE 74TH ANNUAL CONCERT

DOSHISHA GLEE CLUB
CLOVER CLUB JOINT CONCERT

同志社グリークラブ 第74回定期演奏会

12月20日(水)
京都会館第一ホール

同志社グリークラブ・クローバークラブ ジョイントコンサート

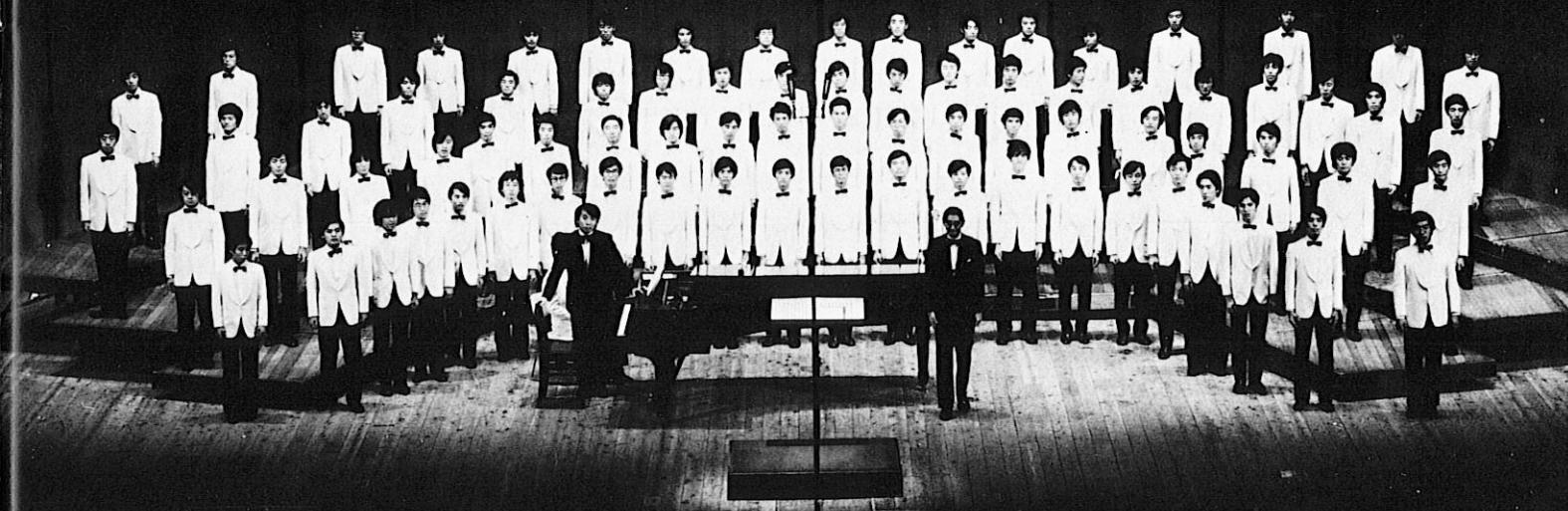
12月14日(木)
大阪毎日ホール



DOSHISHA COLLEGE SONG

One purpose Doshisha, thy name
Doth signify onelofty aim.
To train thy sons in heart and hand
To live for God and native land.
Dear Alma Mater sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' thro' the world we wander far and wide.
Still in our hearts thy precepts shall abide.

Still broader than our land of birth
We've learned the oneness of our earth
Still higher than self-love we find
The love and service of mankind
Dear Alma Mater sons of thine
Would strive to live the life devine.
That we may with increasing years have stood
For God, For Doshisha and Brotherhood



ごあいさつ

今宵はお忙しいなかを私共同志社グリークラブ第74回定期演奏会にお越し下さいましてありがとうございます。本年度も昨年に引きつづきまして私共のOB団体でありますクローバークラブとのジョイントコンサートを定期演奏会の一環として開催いたすことができ、部員一同喜びといたすところであります。

私共同志社グリークラブが名誉顧問の片桐哲先生によって名付けられましたのは今から74年前にもなります。その長い歴史のなかには幾多の困難に遭遇し、辛く苦しい時代もありました。しかしその度に部員一人一人が手を取り合って助け合い、歌うことの素晴らしさと74年の伝統の重みをしっかりと感じ努力してまいりました。また今年より私共のOBである富岡健氏を正式に指揮者としておむかえすることになり、新しい歴史がまた築かれることと思います。

今宵このホールに響きわたる私共の音と心のハーモニーが、いつまでもみなさまの心の中に焼きつき離れることがないようでしたら、私共にとってこれにまさる喜びはございません。

最後になりましたが、演奏会開催にあたりまして、多大なる御支援、御協力を賜わりました諸先生、諸先輩、ならびに関係各位の皆様方に厚く御礼申し上げますと共に、今後ともより一層の御指導、御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

部員一同

PROGRAM

PROGRAM

同志社グリークラブ・クローバークラブ ジョイントコンサート

12月14日(木)
大阪毎日ホール

Doshisha College Song

作詩 W.M.Vories
作曲 Carl Wilhelm

III

男声合唱組曲 「北斗の海」

1. Bering-Fantasy
2. 窓
3. 風景
4. 海
5. エリモ岬

作詩 草野 心平
作曲 多田 武彦
指揮 橋上 雅人

~INTERMISSION~

I

Mass in honor of Saint Sebastian

1. KYRIE
2. GLORIA
3. CREDO
4. SANCTUS
5. BENEDICTUS 作曲 Heitor Villa-Lobos
6. AGNUS DEI 編曲 福永陽一郎
指揮 福永陽一郎

IV

Negro Spirituals

1. Ev'ry Time I Feel the Spirit
2. Mary Had A Baby
3. My Lord, What a Mornin'
4. Ain'a That Good News!

指揮 山下 裕司

II

四つの仕事唄

1. 叢し田
2. 石切唄
3. 胴搗き
4. 酒屋唄 作曲 小山 清茂
指揮 富岡 健
太鼓 三輪 勇

V

Seven Beatles Numbers

1. DAY TRIPPER
2. HERE, THERE AND EVERYWHERE
3. GIRL
4. OB-LA-DI, OB-LA-DA
5. MICHELLE 編曲 宮嶋 将郎
6. ELEANOR RIGBY 指揮 富岡 健
チエンバロ 伴奏 長島 優子
7. YESTERDAY

同志社グリークラブ

第74回定期演奏会

12月20日(水)
京都会館第一ホール

Doshisha College Song

作詩 W.M.Vories
作曲 Carl Wilhelm

Mass in honor of Saint Sebastian

1. KYRIE
2. GLORIA
3. CREDO
4. SANCTUS
5. BENEDICTUS 作曲 Heitor Villa-Lobos
6. AGNUS DEI 編曲 福永陽一郎
 指揮 福永陽一郎

~INTERMISSION~

シューベルト男声合唱曲集より

1. Widerspruch
2. Nachthelle
3. Sehnsucht 作曲 FRANZ SCHUBERT
4. Mondenschein 指揮 福永陽一郎
5. Die Nachtigall 独唱 高 丈二
 ピアノ 長島 優子
 伴奏 長島 優子

I

II

III

IV

男声合唱組曲
「北斗の海」

1. Bering-fantasy
2. 窓
3. 風景
4. 海
5. エリモ岬

作詩 草野 心平
作曲 多田 武彦
指揮 橋上 雅人

~INTERMISSION~

Seven Beatles Numbers

1. DAY TRIPPER
2. HERE, THERE AND EVERYWHERE
3. GIRL
4. OB-LA-DI, OB-LA-DA
5. MICHELLE 編曲 宮嶋 将郎
6. ELEANOR RIGBY 指揮 富岡 健
7. YESTERDAY チェンバロ 伴奏 長島 優子

を異にした型で姿を現わすことに成功しているのである。

尚、伴奏譜は現在、編曲者の手元にも、また初演指揮者の北村協一氏の手元になく紛失されてしまったようだが、今夜の伴奏者、長島優子嬢に、レコードから採譜という労をお願いして、初演と同じ型で再現できることになった

Negro Spiritual

山下 裕司

ニグロも最近では女声合唱団のレパートリーにまでも定着しつつあり、幅広い合唱ファンに親しまれています。もちろんクローバーも数多くのニグロを今まで歌っていますし、過去の定期演奏会におきましても各々のプログラムに相当大きなウエイトを占めてきました。さて今回のステージもやはりニグロを歌うわけですが、とりわけ曲は聞いていただければお判りだと思いますが、今までのクローバーのニグロとは多少イメージが異なります。今日の曲目はアメリカの大学合唱団などでよく歌われているレパートリーから拾ったもので、まったく今までの“黒人靈歌”というイメージから離れたものです。むしろアメリカンフォークという様な感じで、編曲の各所に現代的なセンスが織り込まれ、非常に楽しいムードの音楽になっています。暗い、そして重いイメージの黒人靈歌から、明るい音楽へ、ブルース的なものから、フォークソング的なものへと変化します。さて、大きな問題は、クローバーがこの曲をこなせるか、従来のクローバー得意のニグロから完全にイメージチェンジができるかということです。

さあ、それは幕が上がってからの楽しみ。見た目よりも若さが感じられるステージでしたら大成功だと思っています。



「四つの仕事唄」のルーツ

日下部吉彦

15年前の夏、私は小山清茂氏(作曲者)とデンスケをついて東北の山村僻地を歩いていた。デンスケといふ呼名は、いまはもうなくなったが、要するに携帯用録音器である。いまのカセット・テープレコーダーのようにコンパクトではなく、重さは3キロ以上もあったから、ついて歩くだけで大変な重労働であった。

小山さんは、高所恐怖症で大の飛行機嫌い。日本民謡の原形を発掘するための全国行脚は、すべて汽車でなければならなかった。もちろん新幹線のない時代の話である。汽車から電車、そしてテクシーを使っての取材旅行は、しかし楽しかった。岩手県盛岡市郊外の南部杜氏による酒屋唄を取材したときは、真夏ではあったが酒の仕込み風景を実演してもらい、そこで唄われた歌が、私たちの心をとらえた。《あらもとは楽だと見せて乐じゃない、何仕事に乐はありやしない……》冬の寒のなかでの厳しい労働の辛さを歌いながら歌の調子に暗さはなかった。苛酷な労働の苦しさを、素朴なユーモアや機智で、軽く歌いとばす庶民の智恵であろうか。それとも、追いつめられたあぐくの居直りであろうか。いずれにしろ《酒屋唄》は、春を迎える華やいだ気分に満ちていた。

『めでたでたの若松さまよ…』と歌われる酒屋唄をポンヤリ聞いていると、私たちは、ふと、その労働の辛さや激しさを見落してしまうことがある。このことは酒屋唄だけの問題ではなく、日本民謡のすべてにいえることだ。子守唄でさえ、それが本来、労働歌であったことを忘れてはならない。民謡が土の臭いを失い、三味線のリズムにのってお座敷唄と化してからの年月は長い。私たちはいま、一切の虚飾を洗い去った形の民謡(仕事唄)を掘り起こさねばならぬ、というのが、この取材旅行の目的だった。

小山さんは、このような目的には、最もふさわしい作曲家である。信州の農家に生まれ、東京で作曲を学び、数多くの秀作を書かれたのちもなお、いささかも、その土の香を失わない貴重な作曲家である。だから小山さんの書法はユニークだ。ときには非音楽的かと思われるような手法を使って、原曲のもつ、バイタリティやエネルギーを見事に再現された。

この曲は、朝日放送の制作で、昭和38年度文部省芸術祭に参加し、東京混声合唱団(男声部)によって放送初演された。そして舞台初演は、その翌年の7月、クローバークラブの定期演奏会で、小生の指揮によつて行なった。

組曲は、次の四つの部分から成る。

- ①《囃し田》 山陰地方の田植歌。
- ②《石切唄》 香川県小豆島の石材労働者の歌
- ③《胴搗き》 土工たちの、いわゆるヨイトマケ。
- ④《酒屋唄》 岩手県の南部杜氏の酒造り唄。

●クラス会・立食パーティー￥1,500円より承ります。

お食事処

平安閣

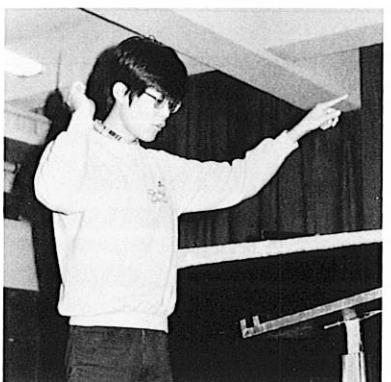
(771) 6113

政府登録国際観光旅館

平安閣

京都・岡崎平安神宮東

(771) 6111



■樋上雅人《第47代学生指揮者》

1956年大阪に生まれ、京都で育つ。1975年同志社大学法學部に入学と同時に、グリークラブに入部し、セカンドテナーのソリストとして活躍する傍ら、副指揮者として経験を積む。今春、第47代学生指揮者に就任し、「草野心平の詩から」を指揮して合唱界にデビュー。寸分のミスも許さぬ彼の音楽に対する厳しい姿勢は、部員からの信頼が厚く、その優れた音楽性は、各方面から高く評価されている。三条木屋町の某スナックでの水割りを手にした彼の後ろ姿には、何か哀愁を帯びたものを感じさせるが、あのスリムな体で、今宵のステージで見せる彼の後ろ姿には、きっと多くの方が魅了されることでしょう。



■高 丈二《テノール独唱》

東京芸術大学卒業。渡辺高之助に師事。在学中よりその美声は知られ、卒業後コンサート、放送に活躍。オペラでは1965年「魔笛」のタミーノでデビュー。1967年文化庁青少年芸術劇場の「蝶々夫人」ではピンカートンを演じ好評を得る。1968年春渡伊、ミラノに留学。翌69年エンナ市国際コンクール声楽部門第3位、続いてメラーノ国際オペラコンクール第2位に入賞。

現在東京芸術大学講師 二期会会員



■山下裕司《クローバー指揮者》

1977年同志社経済学部卒業。第45代学生指揮者。グリークラブ入部からステージマネージャー、バリトンパートリーダーとして活躍し、又指揮者としては、豊かな音楽性、鋭い聴覚練習のうまさなどで部員の信頼を集める。又クラブから離れるとき、ゼミの宴会要員として、先生からの絶大な信頼を得る。卒業後は、後輩、同輩の期待に反して、見事重労働に耐え、早くも中年の貴禄を獲得しつつある。ともあれクローバークラブ期待の新人指揮者である。



■長島優子《ピアノ・チェンバロ伴奏》

同志社女子大学学芸常部音楽学科（ピアノ）卒業。ピアノを吉田輝子、福本俊之の両氏に師事。1975年同大学を卒業。同年6月大津管弦楽団とラフマニノフピアノ協奏曲第2番を共演し、ピアニストとしてデビュー。現在、研鑽を積まれる一方、京都市内のいくつかの合唱団の伴奏者として活躍されている。

早いもので、グリーを追い出されてからもうすぐ丸二年になります。グリーを卒業してからも、たまに同期の友達や、後輩達とよく飲みに行くことがあります。話題はいつもグリーの思い出話です。そんな私に周りの連中は、「よう、あきへんなあ」とか、特にチケットを無理矢理押しつけた友達からは、「もう、はよやめろ」などと言われる始末。それが、今度はよりもよって棒を振る様になってしまい、まわりもこれですっきりあきらめた感じです。

学生時代はほとんど毎日棒を振っていたんですが、卒業してからは月2回程ある合唱団で振っているだけで、指揮者としては1年半くらいのブランクがあり、正直いって最初は心配でした。しかし、若さにものをいわせて多少強引にカンを取り戻そうとしています。最初は何となく引き受けた今回の指揮、学生時代に燃やしつづけた打倒福永陽一郎の情熱を今再び復活させ頑張ります。

第74回定期演奏会、おめでとうございます。グリークラブとは、第72回からのお付き合いになります。その間、フェアウェルコンサート、夏の演奏旅行と、グリーメンと一緒に演奏会をもつ機会が多かったのですが、今年は演奏旅行に参加しなかったので、3月（ウィスコンシン大学とのジョイント）以来、9ヶ月振りの共演です。樋上君指揮の下で、その間にみんなが如何に成長しているか、とても楽しみにしています。又今回は、私にとって初めてのチェンバロに挑戦する事になり、大きな不安と小さな期待で、少々複雑な心境ですが、10年来の友人でもある富岡健チャンに助けられ乍ら頑張るつもりです。今宵の演奏会が素晴らしいものになる事を祈りつつ……。

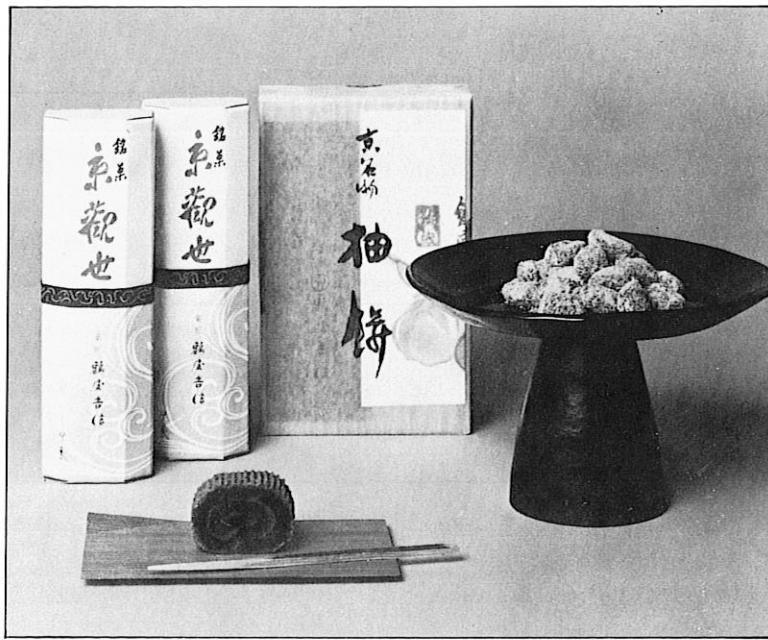
■三輪 勇《太鼓》

同志社大学邦楽部幹事長。文学部3回生。

十二辰

祇園花見小路

京菓匠
鶴屋吉信
本店・京都西陣今出川堀川
東京店・中央区日本橋室町一
四四一〇一〇五
二三一〇五五



京の風格を贈る

ピアノ 音楽の広場 電子オルガン

新規購入から修理・調律・移動まで
専門技術者がすべての御相談に応じます



協立楽器(株)

京都ショウルーム

☎075(255)0220~0221



鳥丸御池東入ル南側(京ビル1F)
10:00AM~6:30PM 水曜日定休、日・祝日営業

国産・輸入名社一流メーカー品を
大量仕入・薄利多売で大奉仕

「純」になるな。
「準」になれ。

『純』。世界のスピリットを見つめ醉いの哲学を求めて、
ついに捕えた純粹の個性。大麦のイノチを醸しオーラの
樽に眠らせ育て上げた原酒をブレンドし、北山杉のチャ
コールで磨き上げる——新しい道の発見でした。純粹に
自分らしく生きようとする若者たちに、いますごい人気。
とくに冷蔵庫のフリーザーで凍らせて飲む「ボトルフリ
ーズ」のウマサが評判です。

宝焼酎
純
70 Proof
宝酒造株式会社



12月1日開店

(南館9階)

ときわ 鉄板焼“常盤”

Steak House "TOKIWA"

樹々の梢を美しい紅に染めた紅葉の葉が散り、
木枯しの中に総てが寒い冬の仕度を始める頃、
京都ホテルでは、12月1日に新たに鉄板焼レ
ストラン「常盤」をオープンいたしました。

場所は南館の9階です。

京都ホテル90周年の歴史のルーツ、常盤ホテル
にちなみ、名こそ「常盤」と決めましたが室内
はスペイン風でエキゾチックな香りに満ちて
います。ぜひお立ち寄り下さい。お1人でも、
お2人でも、又皆さんお揃いでお出掛け下さ
い。お待ちいたしております。

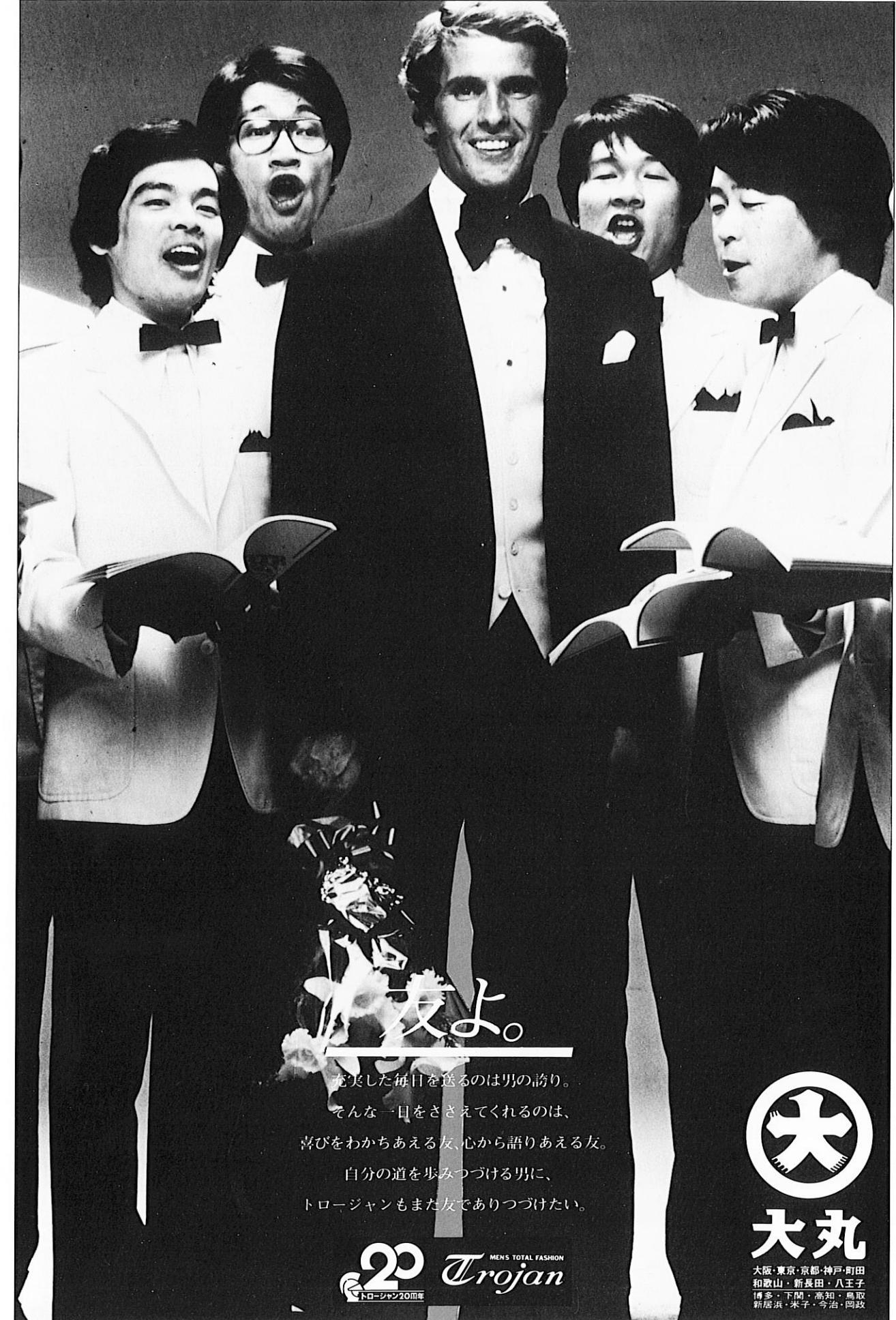


京都ホテル

河原町御池角
TEL 211-5111

レストラン案内

9階 レストラン“オーロラ”。2階 グリル“ジョイ”。
和食堂“伊勢長”。コーヒーパーラー。ラウンジバー。
1階 定食堂。地階 カフェテラス“ピアンカ”。



20
トローニャン20周年

Trojan



大丸

大阪・東京・京都・神戸・町田
和歌山・新長田・八王子
博多・下関・高知・鳥取
新居浜・米子・今治・岡政